

報告3 法政大学キャリアデザイン学部における 新入生履修相談会とピアアドバイザー活動

太田, 千秋

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

生涯学習とキャリアデザイン / 生涯学習とキャリアデザイン

(巻 / Volume)

5

(開始ページ / Start Page)

159

(終了ページ / End Page)

171

(発行年 / Year)

2008-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007528>

〈報告 3〉

法政大学キャリアデザイン学部における 新入生履修相談会とピアアドバイザー活動

法政大学キャリアデザイン学部キャリアアドバイザー 太田 千秋

1. はじめに

法政大学キャリアデザイン学部では、学部開設2年目の2004年から、新入生を対象にした上級生による履修相談会を実施している。これは、初年度にキャリアアドバイザー⁽¹⁾が扱った個別相談で最も多かった「入学直後の履修相談と大学生活への不安」の対応として、キャリアアドバイザーが自主的に企画したものである⁽²⁾。このような経緯で始まった履修相談会は、今では約60%の新入生が利用する一大イベントとなり、上級生が同じ学生の立場で新入生の入学当初の不安を取り除き、大学生活にスムーズに馴染めるように手助けする場となっている。上級生にとっては、新入生の履修相談にのるピアサポート活動を通して、他者のキャリア支援について考え気づきを得られる有意義な機会となっている。

キャリアデザイン学部では「社会の急激な変化に対応しながら自ら学び、考え、行動できる自立／自律的な人間、そういう自立／自律的な生き方をしたいという人たちを支援できる人間」を育てていくことを目指している⁽³⁾。ここで身につけた力は、企業や地域社会などで他者と関わりながら活動する時に、基本的な力として生きてくると考える。この力を育むため、文部科学省の平成18年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」で採択された『大規模私大での大卒無業者ゼロをめざす取組』—学生が行う「キャリア相談実習」による職業意識の質的強化—に基づき、

2007年度から「キャリア相談事前指導」「キャリア相談実習」の2科目が新たに必修科目に加わった。これは、学生が上級生や卒業生によるキャリア相談を受けながら、高校生や下級生の相談にのるプログラムである。今年度から履修相談会のピアアドバイザー活動は、この「キャリア相談実習」の学内実習先として位置づけられており、2008年度ピアアドバイザー募集には、「キャリア相談事前指導」を履修済みの一年生から40名を超える応募があった。例年の実績から、2008年度履修相談会では、このピアアドバイザーが約200名の新入生の相談を受ける予定である。このように、履修相談会は新入生・上級生とも関わる人数が多いことから、本学部の他者のキャリア支援の代表的な取り組みになりつつある。

ここでは、2004年度から2007年度の4年間の新入生履修相談会とピアアドバイザー活動の取り組みを紹介し、相談会に参加した新入生のアンケートとピアアドバイザー活動に参加した上級生の感想を通して、学生参加型の「他者のキャリア支援活動としての相談業務」が双方に及ぼす影響について報告する。併せて活動を束ねるキャリアアドバイザーの役割と、新入生履修相談会の現状の課題と今後の方向性を述べる。

2. キャリアデザイン学部履修相談会

これは新入生の履修する授業科目の組み方や大学生活に関する相談に、上級生が同じ学生の立場で相談にのり、サポートする相談会である。履修

相談会は学生の声を取り入れて毎年進化しており⁽⁴⁾、2004年度は一般履修相談会（昼の時間帯を中心に履修する学生）と社会人学生履修相談会（夜の時間帯を中心に履修する学生）を実施、2005年度からは留学生履修相談会も加えて3種類の履修相談会を実施している。社会人学生履修相談会後は、大学内で社会人学生の新入生と上級生・教員との交流を図る懇親会を実施し、留学生履修相談会は新入留学生・先輩留学生・教員と昼食をとりながら行う形をとっている。このように本学部では、数が少ない社会人学生・留学生が学部スムーズに溶け込めるきっかけづくりとしても履修相談会を活用している。

（１）目的

履修相談会は ①新入生の履修に関する不安・疑問を解消する ②新入生が学部で早く溶け込めるようにする ③上級生「ピアアドバイザー」が新入生の手助けをすることで学年間交流を行い、学部の内容をより伝わり易くする の3点を目的としている。

（２）新入生への告知方法

2005年度から学務部主催の新入生ガイダンス（昼・夜各1回、新入生約300人対象）において、キャリアアドバイザー4名とピアアドバイザーの有志（一般・社会人・留学生ピアアドバイザー計10名）がPR活動を行っている。履修相談会につ

いての案内を掲載したキャリアニュース⁽⁵⁾、履修科目の時間割の作り方を記したCareer guide⁽⁶⁾を配布し、大学での科目履修・時間割の仕組みについてキャリアアドバイザーが簡単に説明する。そして白紙の時間割記入表を配布し、まず自分で資料をよく読んだ上で時間割を組んで記入してみるよう指示する。その上でわからないことがあればそれを持参して、気軽に履修相談会を利用するように呼びかけている。その後、ピアアドバイザーが自己紹介（自分の得意とする相談内容を含む）し、各履修相談会への参加をPRする。

（３）履修相談会実施実績（相談記録シート集計）：〔表１〕

履修相談会は、4月第1週の新入生ガイダンス期間と4月第4週の履修登録期間を考慮し、その間の4月第2週～3週の約10日間に行っている。2004年度は5日間のみの実施で、社会人学生履修相談会を土曜日に実施した。2005年度以降は、一般履修相談会は月～木曜日の12：40～17：00に実施、社会人学生履修相談会は17：00～19：00に実施している。毎年3種類の履修相談会で受ける相談件数は200件以上となっている。

相談は前半の週に150件程度が集中し、後半の週は主に相談2回目以降のリピーターが多い。毎年約60%の新入生が履修相談会を利用し、リピーターの割合は利用者の約35%である。

〔表１：年度別履修相談会実施実績〕

年度	期間	一般相談 会日数	社会人相 談会日数	留学生 相談会 日数	ピアアド バイザー 数	相談件 数
2004	4月14日～20日の間	5日間	1日間	1日間	14	127
2005	4月6日～21日の間	10日間	2日間	1日間	24	231
2006	4月6日～20日の間	9日間	2日間	1日間	29	238
2007	4月6日～19日の間	9日間	1日間	1日間	29	261

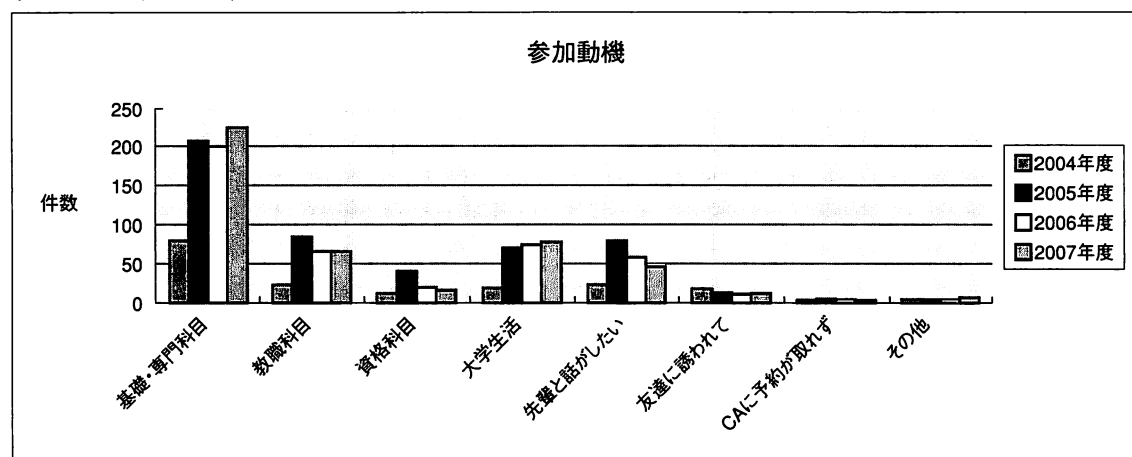
（2005年度相談件数には留学生相談分はのぞく）

法政大学キャリアデザイン学部における新入生履修相談会とピアアドバイザー活動

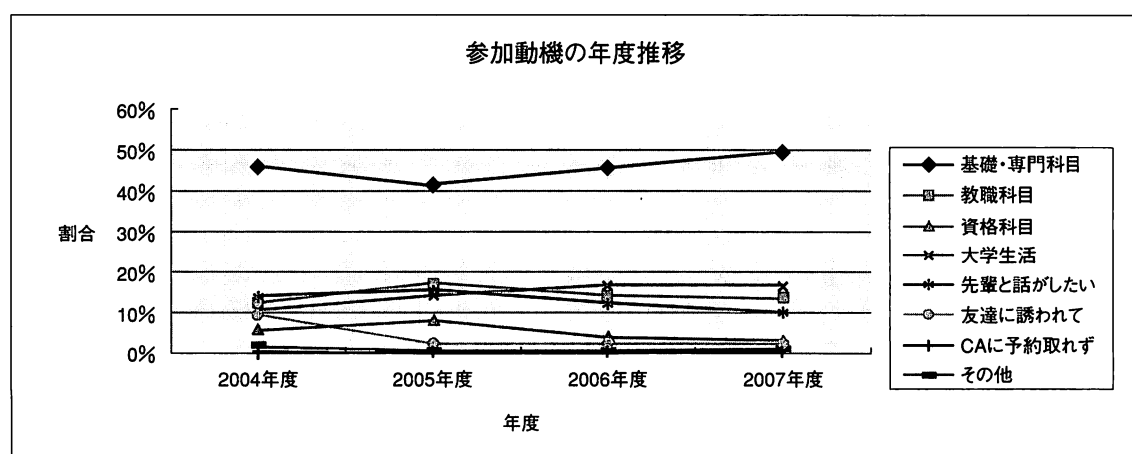
〔表 2：年度別参加動機〕

参 加 動 機	2004 年度		2005 年度		2006 年度		2007 年度	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1. 基礎科目・専門科目の履修についてわからないこと、不安があった	80	46.2	209	41.9	199	46.1	225	50.2
2. 教職科目の履修についてわからないこと、不安なことがあった	21	12.1	84	16.8	65	15.1	65	14.5
3. 資格科目の履修についてわからないこと、不安なことがあった	10	5.8	39	7.8	19	4.4	16	3.6
4. 大学生活についてわからないこと、不安なことがあった	18	10.4	71	14.2	75	17.4	77	17.2
5. キャリアデザイン学部の先輩と話がしてみたかった	23	13.3	79	15.8	58	13.4	46	10.3
6. 友達に誘われたから	17	9.8	12	2.4	11	2.6	12	2.7
7. キャリアアドバイザーとの個別相談の予約がとれなかった	1	0.6	3	0.6	2	0.5	1	0.2
8. その他	3	1.7	2	0.4	3	0.7	6	1.3
合 計	173	100	499	100	432	100	448	100

〔グラフ 1：参加動機〕



〔グラフ 2：参加動機の年度推移〕



(4) 参加した新入生の反応

参加者全員に履修相談会の評価を得るためのアンケートを実施した。その結果、以下のことがわかった。

a) 新入生の参加動機（複数回答可）：〔表2、グラフ1・2〕

新入生が履修相談会を訪れる動機として、約半数が「基礎科目・専門科目の履修についてわからないこと・不安があった」を選択している。訪れた新入生に個別に話を聞いてみると、入学したばかりで「履修」という言葉をはじめとして大学特有の言葉がわからず、シラバスの内容が理解できないという学生が少なからずいる。このことから、自分でシラバスを読んだだけでは履修に関してあまり理解できず、不安になった新入生が訪れることが推測される。2週間にわたって開催している2005年度以降の参加動機年度推移を見てみると、「基礎科目・専門科目の履修についてわからないこと・不安があった」「友達に誘われたから」を選択している学生が増加している。一方、「教職・資格科目の履修についてわからないこと・不安があった」「先輩と話がしてみたかった」を選択している学生は減少している。

b) 参加者の感想

・質問：「参加してみていかがでしたか？」（選択回答/人）：〔表3〕

ほぼ全員が「参加してよかった」と答えており、新入生にとっての満足度は高い。

c) 感想・意見、要望等：〔表4〕

すべての学生が、履修相談会について「良かった・役立った」とする感想を自由記述欄に書いていた。その内容は ①履修相談会全般に対する評価 ②ピアアドバイザーに対する印象 ③履修・授業・時間割についての理解 ④大学生活その他の4種類に分けられる。

参加動機として「先輩と話がしてみたい」を挙げた新入生は10%程度だったにもかかわらず、感想の自由記述欄には新入生の54%がピアアドバイザーに対する感想を書いている。いずれも「良かった」とする感想であることから、履修相談会に高い満足度を得ている理由として、ピアアドバイザーが相談にのっていることが挙げられるだろう。履修・大学生活への不安等を払拭するためには新入生の目線に立ったアドバイスが求められる。その点において、入学時に同じ経験をした学部の上級生が応対するというメリットは大きい。新入生は、相手が上級生だからこそ、履修相談をきっかけとして、サークル活動やアルバイトなど大学生活全般で不安に思っていることを気軽に相談できるのであろう。また、自分に年の近い上級生に親身になって相談にのってもらったという経験は、その後に自分も後輩の役に立ちたいという気持ちに繋がる。毎年ピアアドバイザー募集時の志望動機には、自分がお世話になったので今度は自分が後輩の役に立ちたいというものが目立つ。こういった経験が、学部が目指す内容の一つである「他者のキャリア支援」とはどういうものなのか考えることに繋がっていくのである。

ピアアドバイザーに対する印象では、「親切だ

〔表3：参加した感想〕

	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度
1. 参加してよかった	96	218	217	234
2. 時間の無駄だった	0	0	0	0
3. どちらとも言えない	2	2	4	1
合計	98	220	221	235

法政大学キャリアデザイン学部における新入生履修相談会とピアアドバイザー活動

った、親身になってくれた」「わかりやすかった」が多い。これはピアアドバイザーが自らの役割を認識し、履修に関する知識・カウンセリングの基礎的スキルの習得に努め、それを相談に生かす事ができたことによるとと思われる。

履修・授業・時間割についての理解では、「時間

割の見直し・改善が必要なことがわかった」「授業の選び方などがわかった」が多い。これは、ピアアドバイザーが新入生と一緒にシラバス・履修の手引きを確認しながら、適切な情報収集の方法を丁寧に指導していることによるとと思われる。新入生の中には、友人や上級生から得られる先生の

〔表４：感想・意見、要望等（2007年度アンケートによる自由記述）〕

項目	内容	件数
①履修相談会全般に対する評価（173件）	不安・悩みが解消した。安心できた。	37
	ためになった。参考になった。	28
	わからないことが解決できた。	24
	必要なこと、良い情報が得られた。	14
	助かった。	14
	参加してよかった。	32
	また参加したい。	24
②ピアアドバイザーに対する印象（128件）	先輩の話・経験からの意見が聞けてよかった。	13
	親切だった。親身になってくれた。	26
	わかりやすかった。	24
	丁寧だった。	17
	楽しかった。面白かった。	16
	優しくかった。	12
	良い人だった。	8
	詳しくてよかった。	5
	気軽に話し易かった。	5
	頼りがいがあった。	1
	専門の人でよかった。	1
③履修・時間割・授業について（48件）の理解	時間割が組めてよかった。	17
	時間割の見直し・改善が必要なことがわかった。	7
	時間割のチェック・確認ができた。	3
	授業のこと、選び方などがわかった。	7
	先生の話を受けてもらった。	2
	教職科目についてわかった。	6
	専門・基礎・資格科目・体育会登録等についてわかった。	各1

④大学生活・その他 (22件)	シラバスを読むことの大切さがわかった。	1
	自分でしっかり時間割を立てたい。	1
	大学生活についての話が聞けた。	6
	大学生活を楽しみたいと思った。	5
	いろいろなことが見えてきた。	2
	ほめられた。自信がついた。	各1
	自分で考えただけでは気づかない事があることがわかった。	1
	知らないことがたくさんあることがわかって良かった。	1
	大学で自分がどうすればいいのか見えてきた。	1
	出身地の話が出来て嬉しかった。	1
	アルバイト・PC・オープンキャンパスの事が聞けた。	各1

印象や成績評価・出席に関する情報だけで時間割を決めようとしたり、多くの異なった情報が入り過ぎることによって、時間割を決めかねている学生がいる。ピアアドバイザーはそのような相談を受けた場合、①クチコミ情報は話し手の主観が入った情報であること ②上級生からの情報は昨年度の情報であって今年度が同じ授業内容とは限らないこと ③興味を持って受講できる内容かどうかを今一度考えることなどをアドバイスしている。そして、大学生活において多くの時間を占める「学びの時間」を有意義なものとするために、授業を選ぶ際にはシラバスをよく読み、自分で実際に初回の授業に出席してから受講するかどうかを判断し、決定することが重要であることを伝えている。

また、履修相談会が長期的な視点のもとに自分の履修を設計する必要性を感じる場になっていることが、感想から伺える。キャリアデザイン学部では教育・文化・経営の3分野にわたって多様な科目が学べるようにカリキュラムが組まれており、1年の履修登録時から各自が将来の専門分野を意識しながら科目を選ぶ必要がある。上級生のアドバイスは、新入生が①履修科目を自ら選ぶ必要性を自覚 ②カリキュラムを理解 ③履修科目を選択 ④選択肢に関する情報収集 ⑤時間割

を組む ⑥初回の授業に出席 ⑦時間割を再検討 ⑧履修登録 というプロセスを学べるよう配慮したものとなっている。このようなプロセスを経て自己決定を行う経験を大学生活で繰り返していくことは、今後の就職活動や自らのキャリアを設計する節目で役立っていくだろう。

3. 履修相談会ピアアドバイザー活動

ピアアドバイザーの活動内容は、前年の反省会で作られるピアアドバイザーの提案・意見・感想をもとに毎年改定を行い変化している。2007年度は特に、キャリアデザイン学部のカリキュラムが大幅に変わる年度にあたり、上級生は自分が学んでいないカリキュラムについて新入生にアドバイスするという難しいピアサポート活動に直面した。その2007年度のピアアドバイザー活動を中心に報告することにしたい。当該年度のピアアドバイザー活動は①事前研修の参加 ②新入生への履修相談会PR活動 ③履修相談会での相談活動 ④反省会 ⑤次年度ピアアドバイザー募集PR活動を行った。

(1) ピアアドバイザーへの応募状況

ピアアドバイザー募集は、毎年キャリアアドバイザーによる1・2年生必修授業での呼びかけと

チラシ配布、掲示板での告知等で行う。2006年12月にキャリアアドバイザーが行った一般履修相談会ピアアドバイザー募集には、2年生12名・1年生10名が応募、2007年3月までに、社会人学生履修相談会・留学生履修相談会のピアアドバイザー7名を加え、29名の応募があった。ピアアドバイザー応募時に書く志望動機は、入学時に自分がお世話になったから今度は新入生の役に立ちたいというものが多く、例年通り活動に高い意欲を持つメンバーが揃った。

ピアアドバイザー活動の特徴として、必ずしもグループ活動が得意としていない学生でも応募しやすいことが挙げられる。これはピアアドバイザー活動の内容が主に個人で行うものであることによる。履修に関する知識やカウンセリングのスキルを習得し、新入生からの相談を受け報告するという業務内容は、基本的には明確なキャリアアドバイザーの指示系統の下で行われる個人の活動である。そのため、学生同士の話し合いや調整の中で進める必要のある活動とは異なり、グループで活動することに苦手意識を持つ学生にも取り組みやすい活動となっている。このピアアドバイザー活

動で自信をつけたことをきっかけとして、グループでの活動が含まれる他者のキャリア支援に踏み出す学生もいる。

また、毎年安定した応募者数がある理由として、活動の時期が研修も含めて4月の3週間という短期間に集中すること、相談業務は自分のスケジュールを優先できることなど、学生にとって取り組みやすい環境を整えていることが挙げられる。教育系の分野に興味のある学生からは、キャリア相談を実践する機会として人気があり、2年間にわたり活動に参加する学生もいる。

(2) 事前研修

事前準備として、2007年3月31日、4月4日の2日間に計6時間のピアアドバイザー研修を行った。参加は必須とし、研修への参加にあたっては事前に「キャリアデザイン学部履修の手引き」の指定されたページを読み込んでくることを義務づけた。研修では、ピアアドバイザー活動の役割として ①新入生に対して学部の先輩として履修や大学生活の相談に応じる ②新入生の相談内容をキャリアアドバイザーに伝える の2点があるこ

〔表5：事前研修プログラム〕

日程	プログラム	時間
一日目	①履修に関する一般的な知識 ②今年度の履修アドバイスで気をつけること ③新カリキュラムの特徴、旧カリキュラムとの変更点 ④履修相談会概要、スケジュール	2時間
二日目	①履修相談会ピアアドバイザーとは ②2006年度履修相談会の状況 ③想定される主な相談内容と、今年度の回答例 ④回答する時に心がけること ⑤相談を受けるってどういうこと？ ⑥ロールプレイをしてみましょう！ ⑦当日の対応手順の確認	4時間

とを確認し、そのために必要な知識・スキルの習得する場であることを理解させた。そして、履修相談の中心となるのは「新入生が自分で時間割が組めるための方法を教える」ということであり、カリキュラム表の読み方・時間割の組みかた・情報収集の方法を教えるというテクニカルな面を指導することを相談回答のメインにおくということを徹底した。一日目は主に履修相談を受けるために必要な知識を扱い、二日目は履修相談会の概要説明の後、カウンセリングの基礎的なスキルを習得するためのロールプレイを行った。2日間のプログラムの内容は〔表5〕の通りである。

2007年度は、ピアアドバイザーが新入生が履修する新しいカリキュラムの知識を持っていないため、例年以上の不安を持つことが予想された。そのため研修では ①回答に自信が持てない場合はキャリアアドバイザーに任せることや、当該年度に限ってはカリキュラムに関して自分の経験からのアドバイスはしないという原則を徹底した。特に一年生の必修科目となる「キャリア相談事前指導」「キャリア相談実習」についての相談を受けた場合は、すべて授業専属の専門職員であるキャリア相談アドバイザー⁽⁷⁾に対応を任せることとした。また、研修の中に昨年度のピアアドバイザーに経験を語ってもらい、質疑応答の時間を設け、ピアアドバイザーの不安を極力減らすように努め

た。

(3) 履修相談会PR活動

新入生ガイダンス（昼夜各1回）で、ピアアドバイザーが自己紹介し、各履修相談会への参加を呼びかけた。話す内容はピアアドバイザーに一任し、3種類の履修相談会ピアアドバイザー10名がPRを行った。職員・教員が話す時間が続くガイダンスの場で、上級生がマイクで話すPR内容は新鮮なものらしく、新入生は熱心に説明を聞いていた。

(4) 履修相談会ピアアドバイザー活動

履修相談会でのピアアドバイザーの業務の流れは〔表6〕の通りである。ピアアドバイザーが与える第一印象は学部の印象を左右する可能性があり、とても重要であることから、上級生が率先して笑顔の挨拶と気持ちの良い自己紹介をすることを徹底している。昨年度迄は相談時間の目安を設けていなかったため、1時間を越える相談が発生していた。その結果相談待ちの新入生が出てしまい、また相談が長引くことによってピアアドバイザーの精神的負担が大きくなってしまったことがあった。この反省から、2007年度は特に1回の相談時間を30分程度とし、長くなりそうな相談の場合は新入生に次回までの課題を出し、それを持って

〔表6：履修相談会当日のピアアドバイザー業務の流れ〕

- ①新入生にあいさつをし、簡単な自己紹介をする。
- ②新入生が持参した相談記録シートに開始時刻を記入する。
- ③氏名・学籍番号が未記入であればその場で新入生に記入してもらう。
- ④終了予定時刻を確認する。
- ⑤相談を受ける。(1回30分程度を目安にする)
- ⑥再度来る予定の相談者に次回までの課題内容を確認する。
- ⑦相談終了後、新入生にアンケートを渡し記入を依頼する。
- ⑧相談記録シートに相談内容・回答・時間等を記入する。
- ⑨キャリアアドバイザーに相談記録シートを提出する。

再度相談にきてもらうようにした。

(5) 反省会およびピアアドバイザーの感想

2005年度までは慰労会として軽食を立食形式で提出していたが、2006年度からはピアアドバイザーからの考えを聞くための反省会を行っている。ピアアドバイザーからは様々な感想と、研修・履修相談会運営に関しての改善提案が出される。反省会で寄せられた声は〔表7〕の通りである。その内容は ①人との交流 ②自己の成長 ③反省

点 の3種類に分けられる。

ピアアドバイザー活動全般の感想として、新入生・メンバー同士の交流ができたことに関して「良かった」「嬉しかった」というものが多かった。ピアアドバイザー活動は基本的には学生の縦や横の繋がりを必要とするものではないが、活動するうちに自然に人との交流ができ、他者との関係を結んでいくきっかけになっていることがわかる。

自己の成長・反省点については、知識の量、コミュニケーションスキルなどに関する感想を挙げ

〔表7：2006・2007年度反省会でのピアアドバイザーのコメント（口頭で寄せられたものを抜粋）〕

①人との交流	1年生が頼ってくれるのが嬉しかった。1年生と話せて良かった。 アドバイスをした学生にすれ違った時に声をかけられると嬉しい。私も声をかけようと思った。 新入生が後で挨拶してくれたり、授業で会った時に再度ありがとうございますとってくれて、とても嬉しかった。 不安そうな顔だった新入生が、相談後に安心して帰っていくのが嬉しかった。 似通った質問が多く、新入生が感じている不安等がわかってよかった。 ピアアドバイザー同士の知り合いができてよかった。 空き時間に3年生のピアアドバイザーに履修相談にのってもらった。(2年ピアアドバイザーより) 人からの質問にどう答えるか考える機会が普段ないので気を遣いながら話した。 顔見知りになった一年生が交流会で話しかけてきてくれて嬉しかった。 とにかく楽しかった。機会があればまたやりたい。 履修相談を通して、知り合いが増えた。ピアアドバイザーをやってよかった。
②自己の成長・感想	自分でシラバスをよく読みカリキュラムを確認したことで知識量が増え、自分のためにもなった。 自分で単位のことを真剣に考えるようになった。 ピアアドバイザーをやる前はわからなかった履修のことが、終わってみるとわかるようになった。 自分が履修について理解できていないことに気づけてよかった。 カウンセリングに興味があったので、自分のことを話しながら相手の言うことを聞くということが実際に体験できてよかった。 人の質問に上手く答えることが難しいというのがわかってよかった。 人の話を聞いて的確にアドバイスできるようになった。気持ちを考えて話をする心を心がけた。 コミュニケーション能力がついたような気がする。 一年生に自分の知識を伝えることでわかってくれたことが自信につながった。 人見知りがあったけど、ちゃんと話せたことが自分にとっての自信に繋がった。 あらためていろんなことを勉強する機会になった。 相手の立場に立って考えることの大切さを学んだ。一つ一つ課題を解決していく度に理解できたかどうかを問いかけて、一方で新入生自身が考えたほうがよいことはそう伝えるように心がけた。この相談会に参加してみて、私自身に返ってくるものの大きさを感じた。

③反省点・感想	後で考えると、専門科目のことを含めたもっと有益なアドバイスができたような気がする。知識の面が不足していた。事前にもっとシラバスを読む等の準備しておけばよかった。 自分是不勉強な点が多く、思いもつかないような質問が多かった。 どこまで相談にのってよいか、わからなかった。話をふくらませることができなかった。 形式にとらわれがちになってしまった。やわらかく話したほうがよかった。 研修の時の「大学の難しい専門用語は使わない」ということの大切さを痛感した。 余計なことを言ってしまうと、納得してもらうのに時間がかかった。 アンケートを書いてもらうのを忘れた。 風邪をひいてしまって、万全の体調で臨めなかった。
---------	---

た学生が多かった。実際に相談を受けるという経験を通して、事前に知識・スキルを学び身につけておくことの重要性や、相手の立場に立って聴き話すということの難しさを実感したようである。履修相談会は新入生のためのものであり、ピアアドバイザーは何が相手のためになるのかを常に考えながら相談業務を行わねばならない。そのためには自分の業務の範囲をきちんと認識し、それを遂行するために必要な判断力を身につける必要がある。相談業務の空き時間には、履修の手引きを熱心に読み返すピアアドバイザーの姿が見られた。また、新入生への回答が間違っただったことに後で気づき、キャリアアドバイザーにそれを報告した後、責任を持って正しい回答を伝えに行ったピアアドバイザーもいた。このように、卒業認定に必要な単位取得に関わる相談を受けるという責任の重大さを認識し、ピアアドバイザーとしての自覚を持って業務にあたっているのである。この活動を通して自分自身について得られた気づきも報告され、ピアアドバイザーが自己の成長を感じられる活動にもなっていることがわかる。

また、新入生からの反応によって自分が役に立ったという満足感を得たり、自信が持てたとする感想が多くあった。他者のキャリア支援においては、相手からの肯定的な評価をうけたとすることが支援する側の自信につながる事がわかる。そして、支援をしてもらった感謝の気持ちを、笑顔

やお礼、挨拶などで表現してもらうことが嬉しかったという声もあることから、自分の思いを相手へ行動で伝えることの大切さを学ぶ機会にもなっていると思われる。

(6) 次年度ピアアドバイザー募集PR活動

2006年度まではキャリアアドバイザーだけでピアアドバイザー募集PR活動を行っていた。2007年度はピアアドバイザーの人数を増やすために反省会で出た提案を取り入れ、前年度ピアアドバイザーにPR活動に協力してもらった。いくつかの必修授業で、チラシ配布時に有志の学生がマイクでピアアドバイザーへの応募を呼びかけた。効果はてき面で、授業が終わった直後に、応募のメールが寄せられた。

4. 履修相談会・ピアアドバイザー活動でのキャリアアドバイザーの役割

キャリアアドバイザーは ①ピアアドバイザーの募集 ②ピアアドバイザーの研修 ③履修相談会PR活動 ④履修相談会の運営 ⑤反省会 を行っている。毎年12月上旬のピアアドバイザー募集開始から4月第4週の履修登録まで5ヶ月におよぶ業務となり、キャリアアドバイザーにとってはかなりの期間にわたりエネルギーを要する。履修相談会でのアドバイザーの役割として以下の4点が挙げられる。

(1) ピアアドバイザーとして必要な知識やスキルを習得させる。

履修相談会では卒業認定に必要な単位取得に関わることを扱うため、相談を受けるピアアドバイザーが単位に関する正しい知識を身につけていることが必須である。そして新入生へ与える第一印象を含め、相談しやすいような雰囲気作りや傾聴の姿勢など相談を受ける際の基本的なスキルを、ロールプレイを通してピアアドバイザーに習得させる必要がある。加えて、回答できない質問がきた場合には、速やかにキャリアアドバイザーに任せるという自分の業務の範囲・分担を理解させることが重要である。こういった内容を織り込んだ研修を企画・実施し、知識や面談スキルに関してピアアドバイザーができるだけ不安を持たないよう、精神的なフォローをしていくこともキャリアアドバイザーには求められる。

(2) 安心して相談活動が行われるように環境を整える。

履修相談会実施時は、常に新入生、ピアアドバイザーの様子や状況に気を配ることが重要である。キャリアアドバイザーは履修相談会会場入り口で新入生へ挨拶・声かけをし、受付で相談記録表に相談したい内容を簡潔に記入してもらう。その際に新入生の質問内容やグループの様子・人数・性別等の状況を判断し、ピアアドバイザーの当日の体調、相談可能な残り時間、教職・資格・アルバイト・サークル活動等得意とする相談内容を考慮して新入生を案内する。相談中にピアアドバイザーに何か困った様子があり、キャリアアドバイザーから声をかけたほうがいいと判断した場合には、速やかに介入する。常に会場全体の雰囲気に注意を払い、特に初対面の新入生を相手にするピアアドバイザーの様子には十分な気遣いが必要である。

(3) 「キャリア教育としての他者支援」への学生の取り組みを支援する。

履修相談会の運営については、研修会や反省会

で出されるピアアドバイザーからの提案・意見を柔軟に取り入れ、常に前向きな気持ちで学生が自ら考えたピアサポート活動に取り組めるようにしている。キャリア形成にとっては、自ら考え積極的に行動することが重要である。キャリアアドバイザーは履修相談会を通してその姿勢をはぐくみ、他者のキャリア形成を支援するキャリア相談の実践・体験をする場として、履修相談会が活用されるように支援していく役割を担っている。

(4) 新入生にキャリアアドバイザーの存在を知らせる。

履修相談会はキャリアアドバイザーが多くの新入生と直に接する初めての機会である。教員や事務職員とは異なる専門職として、大学生活で何か困ったことがあった時には気軽に話せるよろず相談先として認知してもらう。特に進路や就職に関する相談の際には、様々な視点からのアドバイスをもらえる身近な社会人として活用してもらえるよう、入学時から親しみを持ってもらうことが大切である。

履修相談会はキャリアアドバイザーにとってこのような役割を担う業務となっているが、キャリアアドバイザーにとっても様々なメリットがある。事前研修は大学生にカウンセリングの初歩を教えるという経験を得る機会になっている。また履修相談会は200名以上の学生と関われることから、学生の様々な声を聞くことができる場である。ここで寄せられる様々な声や情報をもとに学生のニーズを把握し、キャリアアドバイザーが主催するセミナーやワークショップの企画に役立てている。

5. 履修相談会の課題と今後の方向性

(1) ピアアドバイザー数の確保

相談は初めの4日間に集中するため、ピアアドバイザーは前半の週に集中的に対応できるようにシフトを組んでいる。しかし、彼らの必修授業と重なってしまう時間帯には、ピアアドバイザーが

数人しか配置できないことがあり、新入生が相談を受けるまでの待ち時間が長くなってしまふ。待ち時間を短くするために、ピアアドバイザーは一度に5人もの新入生の相談を受ける状態になることがあり、その場合の精神的疲労は激しい。新入生の待ち時間削減とピアアドバイザーの精神的負担軽減のため、今後はピアアドバイザーの人数を増やし、学年をバランスよく確保できることが望ましい。2008年度からピアアドバイザー活動はキャリア相談実習のプログラムの実習先として位置づけられ、ピアアドバイザーは昨年の2倍の60名程度になる見込みである。これにより、昨年までの混雑状況は若干緩和すると思われる。

(2) 事前研修内容の改定

事前研修は主に履修に関する知識とピアカウンセリングスキルの習得を目的としている。ロールプレイにはカウンセリングのスキルを指導できる専門職員が必要だが、4月は業務多忙な時期であり、研修に携わるスタッフが限られる。そのため、現在は一回の事前研修で扱える受講者は30名が限度である。また、ボランティアの学生に交通費を出費させることのないよう、3月中は研修が行えない。このような制約があるので、研修は毎年4月第1週にぎりぎりのスタッフ数で十分な事前準備の時間を確保できないという綱渡りの状態で実施している。このような状況の中、2008年度はピアアドバイザー数が増えるので研修内容を改定して対応しなければならない。幸い2007年度から必修授業になっている「キャリア相談事前指導」の授業のカリキュラムに、他者のキャリア支援を目的とした傾聴のトレーニングが入っているため、2008年度以降のピアアドバイザーのほとんどはこの訓練を受けていることになる。従って、今後の研修内容は履修に関する知識の習得に重点を置いていく。2008年度には教員免許更新制度が導入される見込みであり、学部では教員免許取得希望者も少なくないことから、こういった社会情勢の変化に伴う新しい情報も可能な限り研修に盛り込んでいく。

6. まとめ

新入生履修相談会とピアアドバイザー活動は、学部で行っている他の他者のキャリア支援活動と異なり、キャリアアドバイザーがプログラムの企画・運営を担う取り組みである。ピアアドバイザーはプログラムに則り、短期間で役割を認識し、実施内容を理解し、向上心を持って活動に取り組まなければならない。これは卒業認定に関わる単位に関する履修相談を行うこと、相談業務が活動のメインであること、ピアアドバイザー応募後に春休みが入るために実質の活動が短期間に限られることによる。このように学生が企画・運営する活動ではないが、ピアアドバイザーは毎年驚くほど熱心に取り組む、プログラム活動を実施し、新入生が高い満足感を得られる履修相談会を作り上げてきた。

履修相談会は、他者のキャリア支援をすることによって上級生の成長を促す活動ではあるが、目的はあくまで新入生の履修に関する不安・疑問を解消し、新入生が学部で早く溶け込めるようにすることである。上級生は相談を通して自分が新入生だった頃の気持ちを思い起こし、新入生の気持ちに寄り添いサポートする。その結果として他者のキャリア支援について考え、自分の成長を実感することができる。またその活動に接した新入生が自分も他者のキャリア支援について考え、翌年ピアアドバイザーに応募するという好循環が生まれている。キャリアデザイン学部では、「人のために何かをしたい」といった学生の声を聞くことが多い。それに伴う責任を考え行動し、それが自分のためにもなっていくことを実感する場として、履修相談会はキャリアデザイン学部の伝統行事として、今後も進化しながら続いていくだろう。

注

(1) キャリアアドバイザーは学部学生のキャリア形成支援を担当する学部専属スタッフである。履修・学習・就職・進路支援等、学生が抱える様々な

法政大学キャリアデザイン学部における新入生履修相談会とピアアドバイザー活動

問題や悩みに対する個別相談業務のほか、各種セミナー・ワークショップの実施や学生の自主活動の支援など、学生のキャリア形成に役立つ行事の開催や学生へのはたらきかけを行っている。現在学部には4名のキャリアアドバイザーが在籍している。詳細は、島影義和・太田千秋・吉川由里子・上原加津美(2007)「法政大学キャリアデザイン学部におけるキャリアアドバイザーの取り組みと活動について」『生涯学習とキャリアデザインVol.4』p.169～p.178参照

(2) 上西充子編者(伊藤文男・小玉小百合・川喜多喬共著)(2007)『大学のキャリア支援—実践事例と省察—』経営書院：p.135参照

(3) 2008年度学部案内『法政大学キャリアデザイン学部2008』p.2参照

(4) 蟻川純子(2006)『生きた言葉は人を変える』大誠社：p.159～p.160参照

(5) キャリアニュースはA4サイズの4ページの学内情報紙で、学部生有志とキャリアアドバイザーが編集委員となって作成している。毎年4月号は新入生向けの内容となっており、巻頭ページにキャリアアドバイザー制度や履修相談会の紹介記事が載る。

(6) Career guideはA4サイズ20ページのキャリアデザイン学部新入生のためのガイドブックである。新入生の不安や疑問を減らすため、毎年キャリアアドバイザーが学内で役に立つ情報を盛り込んで作成している。

(7) キャリア相談アドバイザーは必修科目「キャリア相談事前指導」「キャリア相談実習」の企画・運営を通じて教員を補佐し、学生の自主性・問題解決能力を引き出す役割を担当している。現在学部には3名のキャリア相談アドバイザーが在籍している。